



写真は、要約筆記奉仕員養成講習会の一場面です。要約筆記とは、手話通訳と同様、聴覚に障害をお持ちの方に対して、話の内容をその場で筆記して伝えるもので、利用者の隣で用紙に筆記したり、会議や講演などでOHPスクリーンに筆記したものを映し出したりする筆記通訳のことで、約半年の講習会を終了したのち、県の登録試験に合格した3名の方が要約筆記奉仕員として、活躍しています

# 「障害(者)への理解」を考える

「障害」、この言葉について皆さんはどう考えますか。自分とは関係のないことなのでしょうか。今、社会や個人の「障害」に対する考え方に変化が求められています。「障害」について、一緒に考えてみましょう。

## 障害とは・・・

障害(者)といっても、国や文化時代の違いによって、どのような人たちを意味するかは、それぞれ違います。また、世界で共通に使われている定義はありません。

日本では、平成6年に制定した障害者基本法に、身体障害、知的障害、精神障害があるため、継続的に日常生活又は社会生活に相当な制限を受ける者をいう」と定義しています。また、各障害の程度と認定については、それぞれ法律があり、指定の医療機関の診断や認定機関の判定により、障害者手帳が交付されています。

さらに、平成16年には、発達障害者支援法ができ、新たに学習障害や高機能自閉症などといった障害も法的に定義つけられました。

平成21年3月末において、市内で障害者手帳をお持ちの方は、身体「が3千886人、知的」が684人、「精神」が559人、合計5千

129人で、毎年4%ずつ増加しています。市では、障害をお持ちの方が安心して生活できるよう、ホームヘルパーの派遣などによる自宅での生活支援、施設の利用、就労支援、医療費の助成、手当の支給、公共料金の免除などのサービスを提供しています。

しかし、行政のサービスだけでなく、すべてをまかないきれものではなく、関係機関や地域住民の理解協力が必要不可欠となります。5ページののとおり、市内には、障害者を支援する四つの社会福祉法人があり、いずれも障害者の支援だけでなく、地域の理解を深めるために交流の機会を設けるなど、地域に開かれた取り組みを行っています。

## 誰もが元気で安心して暮らせるまちをめざして

個人差がありますが、日常生活において、何らかの支障があるため、「障害」はマイナスイ面として捉えられがちです。国際連合の障害

者権利条約では、「障害とは何ができるかできないかということではない。どういう特性を持った人が多数で、どういう特性を持った人が少数なのか、そして多数の人は、少数の人のことをどれだけ理解できているのかという視点が重要である」と規定しています。

誰もが安心して暮らせるまちをつくるためには、「障害」のあるなしにかかわらず、一人ひとりがお互いを知り、理解する努力が重要です。さまざまな立場のさまざまな人の存在を、ありのままに直視し、受け止めて、身近な地域で共に生きていくことが大切なのではないでしょうか。

「障害」が、すべての人の問題であることを皆さんに認識していただき、市でも、引き続き障害をお持ちの方へのサポートを積極的に推進していきます。

問合せ 障害者福祉課へ

内線 1591

# 埼玉県知事表彰

11月14日( 県民の日 )に、次の方が埼玉県知事表彰を受賞されました。おめでとうございます。

吉沢永次氏( 狭山市議会議員 )



長年にわたり、狭山市議会議員として地方自治の振興発展に尽力するとともに、市議会議長を2回歴任され、議会の円滑な運営に貢献されました。

この間、建設常任委員会委員長や議会運営委員会委員長、決算特別委員会委員長、基地対策特別委員会委員長などを歴任し、常に活発な議員活動に努め、教育・生活環境の充実など、市民生活の向上と市政発展に大きく貢献された功績が認められ、表彰されました。

藤塚忠光氏( 社団法人狭山市医師会理事 )



長年にわたり、社団法人人間地区医師会理事・副会長、社団法人狭山市医師会の理事を務め、会の発展と保健衛生及び地域医療の充実と発展に貢献されました。

この間、狭山市学校医として健康診断や保健指導をとおして児童・生徒の健康管理に尽力してこられたほか、開業医として地域住民の健康維持・増進に努め、地域医療の充実と発展に大きく貢献された功績が認められ、表彰されました。

問合せ秘書課へ内線5052

## 障害者を支援する市内社会福祉法人の活動

( 各法人からの寄稿 )



大樹鍋  
( 福 ) 茶の花福祉会  
( 狭山 )

11月7日、今年で11回を迎える秋の祭典「大樹鍋」は、「で愛・ふれ愛・たすけ愛」のテーマと「千人が笑顔に

なれる」のキャッチコピーのとおり、お越しいただいた皆さんから「おいしいね」の声と笑顔がこぼれていました。今回の祭典で披露した宝樹太鼓、大樹バンド、コーラス部などの演奏を通じ、今後とも地域に開かれた施設として、市民の皆さんとの交流を深めていきたいと思っています。



こぶし祭り  
( 福 ) こぶし福祉会  
( 鷓ノ木 )

10月10日、第3回となる「こぶし祭り」を開催し、利用者、家族、ボランティアだけでなく、自治会の

皆さんをはじめ、施設近くの入間川小学校の吹奏楽部や地元のサークルなど、多くの方々の参加で大変素晴らしいお祭りとなりました。見えにくい精神障害に対する正しい理解への普及は大変困難なものがあり、長い歳月を経て、「精神障害を取り巻く理解者が、これだけ多くいるということをとて心強く感じる事ができた」祭典でした。



食空間「楽」  
( 福 ) 新 ( 中新田 )

木立から差し込む柔らかい日差しの中で、多くの人の出会いとやさしい気持ちを育てていけたらという思いで、中

新田自立スクエアの敷地内にあるモンキーポッド内に食空間「楽」を開業しました。ここを拠点として、地域に根ざした就労の場を作っていきたいと思っています。



みのり祭り  
( 福 ) みのり福祉会  
( 入間川 )

11月1日、毎年開催している「みのり祭り」も、今年で14回を迎えました。地域の皆さんとの交流の

きっかけになればと、障害者乗馬体験やポニーのえさやりなど、動物たちとのふれあいのほか、太鼓演奏( さやま擲会、こどもの国 ) 音楽芝居( 武蔵野音楽大学 ) など、多くの皆さんが参加し、障害のある方もない方も一緒にお祭りを楽しみました。